津波警報で避難 5・2%

静岡など太平洋岸6県 防災意識に課題

東海と東南海・南海地震が同時に起きた場合に大きな被害が想定される静岡や和歌山、高知など太平洋岸の6県で、東日本大震災の発生後、大津波警報と津波警報により避難指示・勧告が出たにもかかわらず、指定場所に避難したのは対象者の2・5%（6県平均）にとどまっていたことが18日、分かった。

避難者数を確認した各県や市町村への共同通信の取材（4月11日時点）で判明。6県の避難対象者は115万9655人だが、避難は2万8621人だった。指定以外の建物や高台に逃れた人もおり、実際の避難者はこれより多いとみられるが、各県の防災担当者は「低水準なのは明らかで、防災意識を高める必要がある」と指摘する。

6県はほかに愛知、三重、徳島。政府の中央防災会議は昨年4月、東海と東南海・南海地震が同時発生すると21府県で死者が約2万5千人に上ると想定。うち6県で約2万3400人を占める。

最多の8100人の死者が想定された静岡県では、19市町で避難指示・勧告が出た。対象者の統計を取っていない下田市を除くと33万262人が対象となったが、県の集計によると、避難者は5796人（1・8%）にとどまった。

高知県では沿岸の18市町が避難指示や勧告が出され、避難者は1万7555人（5・9%）。和歌山県は沿岸全18市町が避難指示・勧告を出し、46万1883人（2・4%）が避難。愛知県は勧告対象になった8966人のうち、避難所に来たのは20人（0・2%）だった。三重県は0・7%、徳島県は4・4%。

和歌山県総合防災課の担当者は、避難率が低調だった原因を「津波警報や避難指示・勧告は大げさに出されると思っている人が多いからではないか」と分析している。

各自避難法考えて

大年邦雄高知大教授（防災水工学）の話

住民は強い揺れを感じたら、安全な高台に早く逃げることを徹底してほしい。少しでも犠牲を減らすには一人一人が被災時の状況を何通りか想定し、どう避難するかを考え、地域でハード・ソフト両面の整備を進めることに尽きる。昨年のチリ大地震では気象庁の津波警報を受けても避難勧告をしなかった市町村があり、両者の意思統一がされていない面もある。広域の巨大災害時は、避難について国が指揮権を発動する仕組みがあってもよい。東日本大震災の際、高知では、避難所に行っても第1波を見て安心したり、情報不足や環境の悪さを理由にしたりしてすぐ帰宅する人が多かった。行政は避難所の在り方も見直す必要がある。

太平洋岸6県の避難率

	対象人数（人）	避難人数（人）	避難率（%）
静岡	33万262	5796	1.8
愛知	8966	20	0.2
三重	32万4385	2247	0.7
和歌山	19万5435	4637	2.4
徳島	11万8724	5166	4.4
高知	18万1883	1万755	5.9
計	115万9655	2万8621	2.5

※避難率は四捨五入。静岡県は県集計の最大避難人数から下田市を除いた。愛知県は海岸沿いの不特定多数に避難勧告した豊橋市を除いた

Q 東海・東南海・南海地震　今世紀前半にも起きると予測されているマグニチュード8級の巨大地震。震源域が静岡県中・西部と駿河湾一帯の場合は東海地震、和歌山県・潮岬より東の紀伊半島周辺だと東南海地震、潮岬以西だと南海地震と呼ぶ。東日本大震災発生後に気象庁が初めて開いた地震防災対策強化地域判定会では「東海地震に直ちに結び付くような変化は観測されていない」とする見解が発表された。

避難指示・勧告　災害が起きたり、発生の恐れがあったりする場合に、市区町村長が災害対策基本法に基づいて出す。避難指示のほうが避難勧告より緊急度が高いが、いずれも強制力はなく、従わなくても罰則はない。

供養の舞 継続へ決意

市内各地にさまざまな郷土芸能が伝わる大船渡市。東日本大震災では、伝統を守ってきた芸能団体も大きな被害を受けた。同市三陸町越喜来の県指定無形民俗文化財「浦浜念仏剣舞」の保存会は津波で面や道具類のほぼ全てを失ったが、再び立ち上がろうとしている。念仏剣舞は「供養」の意味合いが強く、保存会長の古水力さん(65)は「こういうときだからこそ舞わねば」と再生を誓う。

大船渡・浦浜念仏剣舞

気仙地方は念仏剣舞が多い。供養や鎮魂が込められた芸能で、浦浜念仏剣舞も毎年8月のお盆時期が活動の中心。地元の寺院や初盆を迎えた家の庭などで踊り、死者の霊を慰めてきた。

約10年間、途絶えた時期があったが1972年に青年会が復活させ、古水さんはその中心メンバー。以来約40年、浦浜念仏剣舞は幾度もの存続の危機を乗り越え、踊り継がれてきた。

3月11日、古水さんは職場の北里大（同市三陸町越喜来）にいた。高台のため直接的な被災はなく「情報が入らず、周りの様子が何もわからなかった」。津波で壊滅状態となった越喜来地区の様子を目の当たりにしたのは翌朝のことだった。

約50人の保存会メンバーは全員無事だったが、面や太鼓、笛、刀などの道具類は保管していた建物ごと跡形もなく流されていた。

その後、面は17枚あったうち8枚が見つかったが全ての役柄はそろわず、特に主役となる「ささら」が欠けたまま。他には刀が2本見つかっただけだ。

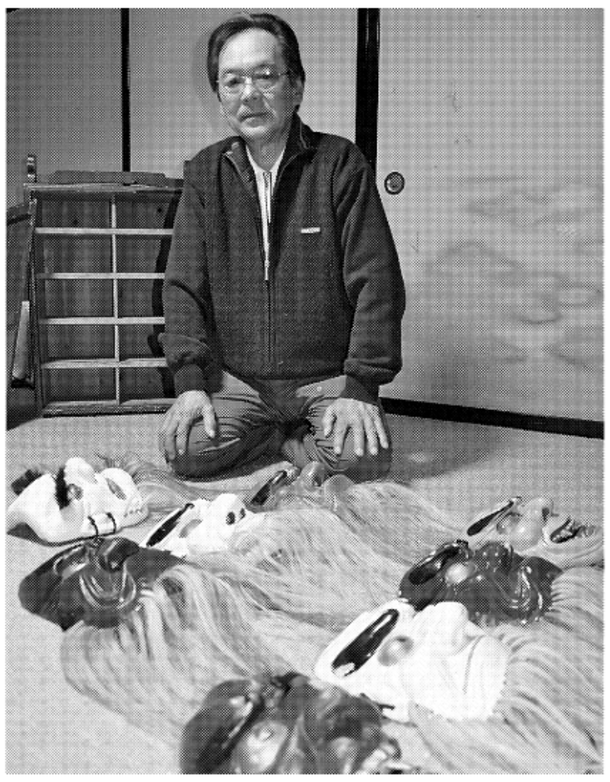
それでも、面や道具の不足は問題ではないという。

古水さんは「こういうときだからやめようという人もいるかもしれないが、その発想だと復興はうまくいかない。どん底からどうは い上がるかが重要」と信念を強める。

見つかった面は丁寧に洗い、自ら彫っている面もある。以前から交流のある東京の「仲間」も支援を申し出てくれた。「休まず、どういう形であれやりたい」。お盆に向け、決意は固い。

津波で伝統の道具流失

「どん底、はい上がる」



「復興のためにも供養の舞を」。見つかった面を前に再起を誓う浦浜念仏剣舞保存会長の古水力さん

枝折れ…それでも桜咲く

大船渡・赤崎小 生命力に住民感心

東日本大震災で津波が校舎2階まで押し寄せた大船渡市赤崎町の赤崎小校庭で、津波に枝を折られた桜が満開になった。力強い生命力が見る人を勇気づけている。

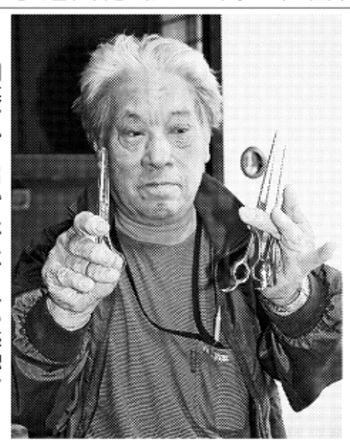
18日の同市は青空から春の陽光が降り注ぎ、折れ曲がった枝先にも淡いピンク色の花が咲き誇り、浜風に揺れた。

この春、同校を卒業した三浦瑠仁（りゅうじん）君、佐々木渉君は「波にのまれ折れているのに頑張って咲いている」「すごい生命力」と誇らしげに見上げた。

桜の周囲は現実に引き戻す光景が広がる。近くの民家から流された生活用品や倒れた電柱、標識などが散乱し、枝には民家の柱も倒れかかる。校庭にはがれきの山が並ぶ。それだけに桜の美しさは地域住民の励みになっている。

大津波により枝が折れた桜。力強い生命力で満開になった＝大船渡市の赤崎小校庭

「あかさき地元学の会」によると、桜は1965年ごろ、同校の庭園整備に合わせて約50本植栽された。今回の津波で倒れた木もあるという。



同業者から届いた、はさみの感触を確かめる佐藤司さん＝16日、山田町

はさみ手に誓う再起

山田の理容師さん 同業者が道具支援

55年間続けた理容店を津波で失ったが、今後もお得意さんの髪を切って回ろうと心に決めた姿が報じられた山田町の佐藤司さん(74)に、山形県と山梨県の同業関係者からそれぞれ理容道具が届いた。

「本当にありがたい。これで何とかなる」。佐藤さんは久しぶりに握るはさみの感触を確かめ、再起の決意を新たにした。

送られてきた段ボール箱の中を、津波を免れた自宅でのぞき込んだ瞬間、顔がほころんだ。旧式の手動バリカン。「ずっと電動を使っていたから腕が鈍っているかもな」「大丈夫なの？」。家族の笑い声に包まれた。

その輪の中に、跡取り息子の学さん(44)の姿はない。震災の日、JR陸中山田駅近くにあった店を出て離れ離れになり、行方不明のままだ。「まだ気持ちの整理がつかない」。気晴らしの散歩でも、店の跡地に自然と足が向かう。

はさみ、かみそり、せっけん、刃の研ぎ石…。届いた箱の中は必需品ばかりだ。山形県鶴岡市の進藤今朝雄さん(61)からの手紙には「理容店を切り盛りしてきたのは自分も同じ。腕があればまた仕事ができる」。以前、父親が経営する理容店で働いていた山梨県韮崎市の篠原茂子さん(65)は「必要なものがあれば、また送ります」。2人とも新聞記事で佐藤さんを知った。

佐藤さんの当面の目標は自宅脇にある小屋を仮の「理容サトウ」にすること。インターネットで理容用いすの中古品を1脚、手ごろな値段で予約した。「やる気が出てきた」。開店準備ができたらまず、震災に耐えた同級生を呼ぶつもりだ。

55年間続いた理容店を津波で失ったが、今後もお得意さんの髪を切って回ろうと心に決めた姿が報じられた山田町の佐藤司さん(74)に、山形県と山梨県の同業関係者からそれぞれ理容道具が届いた。

「本当にありがたい。これで何とかなる」。佐藤さんは久しぶりに握るはさみの感触を確かめ、再起の決意を新たにした。

送られてきた段ボール箱の中を、津波を免れた自宅でのぞき込んだ瞬間、顔がほころんだ。旧式の手動バリカン。「ずっと電動を使っていたから腕が鈍っているかもな」「大丈夫なの？」。家族の笑い声に包まれた。

その輪の中に、跡取り息子の学さん(44)の姿はない。震災の日、JR陸中山田駅近くにあった店を出て離れ離れになり、行方不明のままだ。「まだ気持ちの整理がつかない」。気晴らしの散歩でも、店の跡地に自然と足が向かう。

はさみ、かみそり、せっけん、刃の研ぎ石…。届いた箱の中は必需品ばかりだ。山形県鶴岡市の進藤今朝雄さん(61)からの手紙には「理容店を切り盛りしてきたのは自分も同じ。腕があればまた仕事ができる」。以前、父親が経営する理容店で働いていた山梨県韮崎市の篠原茂子さん(65)は「必要なものがあれば、また送ります」。2人とも新聞記事で佐藤さんを知った。

佐藤さんの当面の目標は自宅脇にある小屋を仮の「理容サトウ」にすること。インターネットで理容用いすの中古品を1脚、手ごろな値段で予約した。「やる気が出てきた」。開店準備ができたらまず、震災に耐えた同級生を呼ぶつもりだ。

中国人船長に「起訴相当」

尖閣漁船衝突 那覇検審が議決

沖縄県・尖閣諸島付近の中国漁船衝突事件で、那覇検察審査会は18日、公務執行妨害容疑などについて中国籍の詹其雄船長を不起訴（起訴猶予）とした那覇地検の処分に対し、「不起訴は不当で、起訴を相当とする」との議決をした。千葉県在住のジャーナリストらが1月末、同審査会に審査を申し立てていた。

船長は昨年9月7日、海上保安庁の巡視船「みずき」に故意に衝突したとして公務執行妨害容疑で逮捕された。だが、那覇地検は同25日、「今後の日中関係を考慮すると、身柄の拘束を継続して捜査を続けることは相当ではない」として船長を釈放した。

那覇地検は1月21日、船長が「みずき」以外にも巡視船「よなくに」に衝突したとする公務執行妨害容疑や、尖閣諸島周辺海域で違法操業したとの外国人漁業規制法違反容疑も合わせて、不起訴としていた。

「震災口実、不当に解雇」

運送会社従業員が提訴 宮城

東日本大震災で営業継続が難しくなったことなどを口実に解雇するのは不当だとして、宮城県岩沼市の運送会社「永大商事」の従業員の男性9人が18日、同社に地位確認と賃金支払いを求めて仙台地裁に提訴した。

今回の大震災を理由とした解雇の撤回を求める訴訟は初めてとみられる。

訴状などによると、同社は3月31日、運転手や事務員など約40人の全従業員に対し、「営業赤字の上、社長が体調不良で後継者もいない。震災でさらに業績が悪化する」などとして、廃業と4月末での解雇を通告した。

しかし同社に震災の被害はほとんどなく、経営が悪化していた様子も見当たらないため、「震災を口実にした不当解雇だ」と指摘している。

押尾被告、2審も2年6月

東京高裁判決「救命可能性あった」

合成麻薬MDMAを出田孝一裁判長は「女性の生存に必要な保護をすべき責任があり、速やかに119番していれば、救命できる可能性が相当程度あった」として成立を認定。その上で「通報によって自らの麻薬使用が発覚することを恐れ、芸能人としての地位を失いたくないという理由で放置した」と批判した。

判決によると、被告は2009年8月、東京・六本木ヒルズで飲食店員の女性＝当時(30)＝の容体が急変したが救急車を呼ばずに放置した。

妻殺害容疑で32歳夫を逮捕

愛知・首切断遺体

愛知県警豊田署は18日、自宅で妻を殺害したとして、殺人の疑いで同県豊田市宮町5丁目、無職古沢元容疑者(32)を現行犯逮捕した。

逮捕容疑は18日午前0時35分ごろ、自宅で妻友美さん(33)を刃物で刺すなどして殺害した疑い。

豊田署によると、棟続きの住宅に住む古沢容疑者の祖母(83)が「孫が嫁を殺したと言っている」と110番。署員が駆け付けたところ、居間で友美さんが首を切断されて倒れているのが見つかった。

古沢容疑者が殺害を認めたため現行犯逮捕。押し入れから凶器とみられる包丁が見つかった。同署が動機や詳しい経緯を調べている。

3人乗り漁船不明

千葉沖、漁具発見

18日午前2時50分ごろ、茨城県神栖市のはさき漁協所属のマグロはえ縄漁船、第1岩井丸（4・9トン）＝岩井洋一船長(44)ら3人乗り組み＝が帰港せず連絡が取れないと、同漁協関係者が銚子海上保安部（千葉県銚子市）に連絡した。

海保などは18日、同船が操業していたとみられる千葉県沖から茨城県鹿嶋市沖の海域を巡視船などで捜索。僚船が銚子市の南東約270キロの海上で、第1岩井丸の船名が入った漁具を発見した。

福島で震度4

18日午前11時8分ごろ、福島県古殿町で震度4の地震があった。気象庁によると、震源地は福島県浜通り、震源の深さは約20キロ、地震の規模はマグニチュード（M）4・4と推定される。

17日深夜にも

17日午後11時46分ごろ、福島県のいわき三和で震度4の地震があった。気象庁によると、震源地は福島県浜通り、震源の深さはごく浅い。

地震の規模はマグニチュード（M）4・4と推定される。

各地の震度は次の通り。

震度4＝いわき三和（福島）▽震度3＝いわき（福島）▽震度2＝小名浜（福島）鉾田当間（茨城）など▽震度1＝大崎田尻（宮城）郡山（福島）水戸、日立、土浦（茨城）益子（栃木）など

避難所間仕切りに賛否

宮古 住民同士の合意不可欠

震災発生から1カ月ち5カ所が設置しており、今後も増える見込み。住民からは「周囲の視線を気にしなくてよい」など歓迎の声がある一方で「圧迫感がある」「コミュニケーションが取りにくい」などの意見もある。各避難所ごとの十分な合意形成が求められる。

宮古市では避難住民を規模の大きな場所に集約したり、学校再開に向けて教室から体育館に移動する動きが加速した。それに伴い、4カ所は市が提供した物資で間仕切りし、1カ所は独自で準備して設置した。

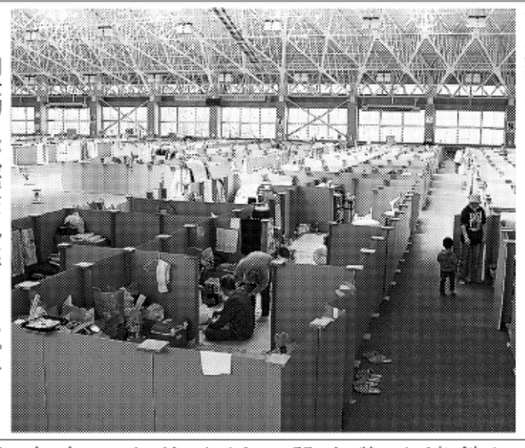
同市田老のグリーンピア三陸みやこは、約400人が避難するアリーナ内を専用の段ボールで仕切った。1ブロックは9平方㍍。2人を基本とし、家族の人数に合わせて調整した。

3人で生活する佐々木一彦さん(79)は「いつも見られているという感じがないのは良い」と喜びつつ「みんな寂しさを抱えている。仕切りによって住民同士の会話が少なくなるのでは」と不安も抱える。

間仕切りは高さ約90㌢で、座ると周囲の様子が見えなくなる。ある母親は「おむつ交換に良い」、別の母親は「遊び回る子どもを捜すのが大変だ」と、子育て世代の意見も分かれる。視野が狭まることで、防犯面を懸念する住民もいる。

学校再開に向けて、教室で生活していた住民が体育館に移動した同市横町の宮古小。救援物資の段ボールを間仕切りにした。話し合いで「人とのつながりを大事にしたい」との要望があり、10人ほどのグループで仕切るよう工夫した。

佐々木泰子さん(69)は「プライバシーが守られて安心して寝ることができるし、仲間との会話も楽しめる」と程よさを強調。しかし、体育館で過ごしていた住民の中には「孤立したような気分になる」と打ち明ける人もおり、ここでも賛否はさまざまだ。



間仕切りが設置されたグリーンピア三陸みやこ。設置にはプライバシーが守られるとの声がある一方、孤立化などを不安視する意見もある

仮設住宅、地元木材で

坂本龍一さん 雇用創出へ支援求める

音楽家の坂本龍一さんが代表を務める森林保全団体「モア・トゥリーズ」（東京）は18日、東日本大震災の被災地周辺の木材を活用した仮設住宅建設のプロジェクト「LIFE311」を立ち上げたと発表した。

材木の加工などで地元雇用の創出とエネルギーの地産地消を目指す考えで、資金の寄付や近隣自治体の用地提供など、広く支援を求める。

モア・トゥリーズによると、仮設住宅1棟の材料、建設費用、ペレットストーブなどの総コストは約300万円。解体後も木材は次の仮設住宅に再利用できる上、最終的に粉砕してペレットとして燃料に転用可能だ。

モア・トゥリーズが提携した住田町は、津波の被災地に隣接することから、地元のスギ材を使った木造平屋一戸建て仮設住宅を町有地で既に建設。抽選で選ばれた被災世帯が今月下旬には入居する予定だ。

坂本さんは「森林の立ち場からでもできる復興支援はある。より多くの皆さまからの支援をお待ちしております」と呼び掛けている。プロジェクトの詳細や問い合わせはLIFE311のサイト（http://life311.more-trees.org/）。

提携の住田に一戸建て建設

この紙面の著作権は岩手日報社が保持しています。無断転載、複製及び配布は禁止します。